

平成 27 年度第 2 回八尾市史編纂委員会概要

日 時 平成 28 年 1 月 18 日 (月) 午前 10 時～正午

場 所 八尾市役所本館 8 階 第 2 委員会室

出席者 (編纂委員)

和田萃委員長、平野佐織副委員長、櫻井敏雄委員、藪田貫委員、浦上弘明委員、
吉川慎一郎委員、森孝之委員

(事務局)

道文化財課長、藤原文化財課長補佐、川西市史編纂室長、小林市史編纂室主査
<学芸担当>尾崎、北林

【案件】

- (1) 平成 27 年度各部会等の調査活動実績及び予算執行状況の報告
- (2) 新版八尾市史資料編について
- (3) その他

【要旨】

「案件 (1) 平成 27 年度各部会等の調査活動実績及び予算執行状況の報告」では、平成 27 年度の各専門部会での調査状況等の報告をしました。また、「物語 八尾の歴史-2 万年のストーリー」について、販売が好調で増刷を行うことについても報告しました。

(主な意見)

- ・「物語 八尾の歴史-2 万年のストーリー」について、小中学校での活用について意見がありました。
- ・「物語 八尾の歴史-2 万年のストーリー」などの「やさしい八尾市史」は、子どもたちや市民の方々に、比較的安価な値段と分かりやすい内容で普及させるという考え方だが、資料編は八尾の持っている歴史遺産を高度な水準で後世に残す、という性格上、住み分けが必要との意見がありました。
- ・今後作成する「やさしい八尾市史」は広く普及を促すために、新聞社や出版社と協力するという考え方もあるという意見がありました。また、市史の普及啓発のため外部団体、企業との連携や、講座をステップアップしてより市民の関心を高めていく工夫などについても検討していくことになりました。
- ・市民の方々が歴史を学ぶにしても楽しくという視点が必要との意見がありました。

「案件（２）新版八尾市史資料編について」では、標準仕様書（案）、書名（案）、表紙カバーの仕様及びデザイン（案）、「考古編１」及び「近世史料編１」の仕様書（案）などについて説明しました。

（主な意見）

- ・考古編、近世史料編ともに２冊の予定であるが、どちらも１冊目は入門編、２冊目は展開編という意味で、作成方針は共通しているという意見がありました。
- ・標準仕様書では、資料編はモノクロとなっているが、美術工芸や建造物はカラーでないといふインパクトに欠ける。全部とは言わないが必要なところはカラーを使えるように検討してほしいという意見があり、建造物や特に美術、仏像関係等はカラー図版を使用した方が、市民の方も非常にわかりやすいので、予算的制約はあるが、必要箇所を精査し、仕様の中で検討していくことになりました。
- ・表紙カバーの河内木綿文様背表紙について、河内木綿の文様をさらに工夫していけば良いという意見がありました。

【書案】

書案の送付件名等について、事務局より説明があった。

（１）「八尾市史資料編」

（２）「八尾市史資料編」

【言葉】

（以下、非常に薄い文字で記載された内容が読み取れないため、ここでは省略する。）